子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning for All

認定NPO法人Learning for All
団体概要資料

2024.09更新

目次

1.ミッション
2. 団体概要
3. 取り組む課題
4. 事業内容 -3つのアプローチ -
    4-1.2023年度ハイライト
    4-2.一人に寄り添う　-地域協働型子ども包括支援 -
        4-2-1.居場所づくり
        4-2-2.学習支援
        4-2-3.食事支援
        4-2-4.訪問支援
        4-2-5.保護者支援
    4-3.仕組みを広げる
        4-3-1.ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金
        4-3-2.コロナ物価高で増える『虐待』を防ぐ 緊急居場所支援事業
        4-3-3.ノウハウ展開事業
        4-3-4.こども支援ナビ
    4-4.社会を動かす
        4-1.課題の普及啓発
        4-2.社会を変えるリーダー人材の育成
        4-3.政策提言
5. 財務状況

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

子どもの貧困に、 本質的解決を。

Children First　「子ども主語」で考えつづける

Change for All　本質的解決のために変わりつづける

Inspire for All　関わる人ぜんぶに学びの機会をつくる

Collaborate for All　つながって、いっしょに創る

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

目次

1.ミッション
2. 団体概要
3. 取り組む課題
4. 事業内容 -3つのアプローチ -
    4-1.2023年度ハイライト
    4-2.一人に寄り添う　-地域協働型子ども包括支援 -
        4-2-1.居場所づくり
        4-2-2.学習支援
        4-2-3.食事支援
        4-2-4.訪問支援
        4-2-5.保護者支援
    4-3.仕組みを広げる
        4-3-1.ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金
        4-3-2.コロナ物価高で増える『虐待』を防ぐ 緊急居場所支援事業
        4-3-3.ノウハウ展開事業
        4-3-4.こども支援ナビ
    4-4.社会を動かす
        4-1.課題の普及啓発
        4-2.社会を変えるリーダー人材の育成
        4-3.政策提言
5. 財務状況

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

基本情報

■**団体名**　**認定NPO法人 Learning for All（ラーニングフォーオール）**

■**活動開始**　2010年6月（当団体は2014年7月23日設立）

■**従業員数**　職員58名、業務委託28名、インターン39名（※2024年3月末時点）

■**事業内容**　私たちは、**「子どもの貧困」を本質的に解決**するために、
下記の3つの事業に取り組んでいます。

1

一人に寄り添う

居場所づくり／学習支援
食事支援／保護者支援 コミュニティ連携
訪問支援

2

仕組みを広げる

基金・補助金事業の運営
ノウハウ展開/ノウハウ共有

3

社会を動かす

普及啓発／人材育成
政策提言

困難を抱える6～18歳の子ども　が自立するまでを、**早期から切れ目なくサポート**する、**『地域協働型子ども包括支援』**の実践。

『地域協働型子ども包括支援』の **全国展開**を目指した、**ノウハウ提供・共有プラットフォームの運営**　。

現場での支援活動や全国の子ども支援団体とのネットワークづくりを通じた、**普及啓発・人材育成・政策提言活動**。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

沿革

2010年	現 認定NPO法人Teach For Japan内で**学習支援事業を開始。**
2014年	**NPO法人 Learning for All を設立。**
2016年	日本財団の子どもの貧困対策プロジェクトで**第1号の居場所拠点を展開し、居場所づくり事業を開始　。食事支援や保護者支援、普及啓発、アドボカシー** を開始。
2018年	6～18歳まで切れ目なく支援する**「地域協働型子ども包括支援」のモデル構築に着手　**。LFAの支援ナレッジを共有する**ノウハウ展開事業** も開始。
2019年	中高生向けの居場所づくり事業を開始。
2020年	コロナ禍における支援家庭のニーズ把握調査を行い、発表。**訪問支援**も開始。
2021年	**子ども支援のノウハウプラットフォーム　『こども支援ナビ』** 運用開始。**『ゴールドマンサックス地域協働型子ども包括支援基金』を立ち上げ。** 東京大学大学院教育学研究科と教育・研究交流連携事業に関する協定を締結 。
2022年	**認定NPO法人となる。**
2023年	**ゴールドマン・サックスの協力で「地域協働型子ども包括支援基金」で　9団体、1.1億円を助成。READYFORとコンソーシアムを形成し、休眠預金を活用した助成とサポートを全国　11団体に2.5億円実施。** 子ども支援事業部エリアマネージャーの宇地原栄斗が“こども家庭庁 こども家庭審議会 部会臨時委員”に就任。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

役員紹介

代表理事　李炯植（り ひょんしぎ）

1990年、兵庫県生まれ。東京大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科修了。2014年に特定非営利活動法人 Learning for All を設立、同法人代表理事に就任。これまでに困難を抱えた子どもへの無償の学習支援や居場所支援を行う。全国子どもの貧困・教育支援団体協議会　副代表理事。新公益連盟　理事。社会的養育地域支援ネットワーク共同代表。2018年「Forbes JAPAN 30 under 30」に選出。2022年「内閣官房のこどもの居場所づくりに関する検討委員会」の検討委員に選出。

理事　熊平美香

昭和女子大学キャリアカレッジ学院長
ハーバード経営大学院経営学修士課程修了

理事　大越一樹

ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン　パートナー
フランスHEC経営大学院経営学修士課程修了

監事　渡辺伸行

TMI総合法律事務所　パートナー
早稲田大学法学部卒業／ニューヨーク大学ロースクール修了

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

目次

1.ミッション
2. 団体概要
3. 取り組む課題
4. 事業内容 -3つのアプローチ -
    4-1.2023年度ハイライト
    4-2.一人に寄り添う　-地域協働型子ども包括支援 -
        4-2-1.居場所づくり
        4-2-2.学習支援
        4-2-3.食事支援
        4-2-4.訪問支援
        4-2-5.保護者支援
    4-3.仕組みを広げる
        4-3-1.ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金
        4-3-2.コロナ物価高で増える『虐待』を防ぐ 緊急居場所支援事業
        4-3-3.ノウハウ展開事業
        4-3-4.こども支援ナビ
    4-4.社会を動かす
        4-1.課題の普及啓発
        4-2.社会を変えるリーダー人材の育成
        4-3.政策提言
5. 財務状況

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

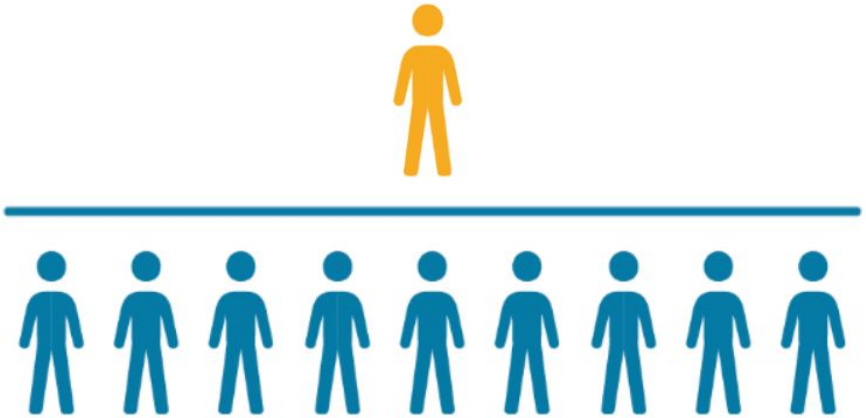
Learning for All

解決したい課題は、「子どもの貧困」

日本でいう「子どもの貧困」とは、 **相対的貧困** のことを指し、

「年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態」と定義されています。

日本の子どもは **９人に１人（11.5%）が貧困状態** にあります。



出典：「2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況」（厚労省）

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

「子どもの貧困」状態の生活とは

ひとり親世帯に限ると約2人に1人（44.5%）が貧困　です。

これは例えば親子2人世帯（ひとり親世帯）の場合、年間約127万円、

つまり1か月約10万円で暮らしている状態です。

※参考：「人口推計（2022年）」（統計局）、「2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況」（厚労省）

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

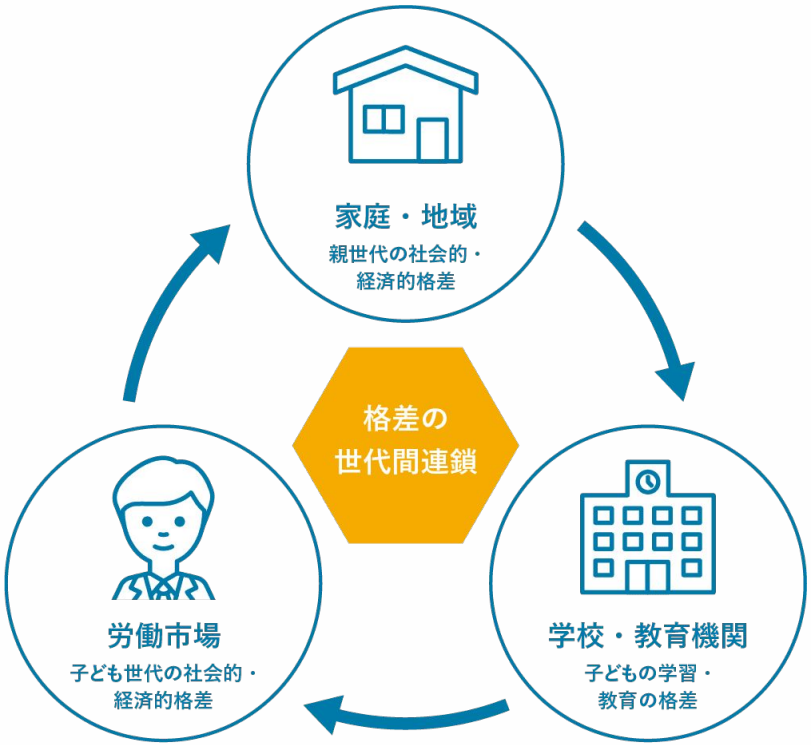
Learning for All

「子どもの貧困」を放置すると・・・

子どもの貧困を放置すれば、格差の世代間連鎖を引き起こし、

わずか1学年あたりでも

経済損失は約2.9兆円、政府の財政負担は1.1兆円増加する と言われています。



※日本財団2015年調査より

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

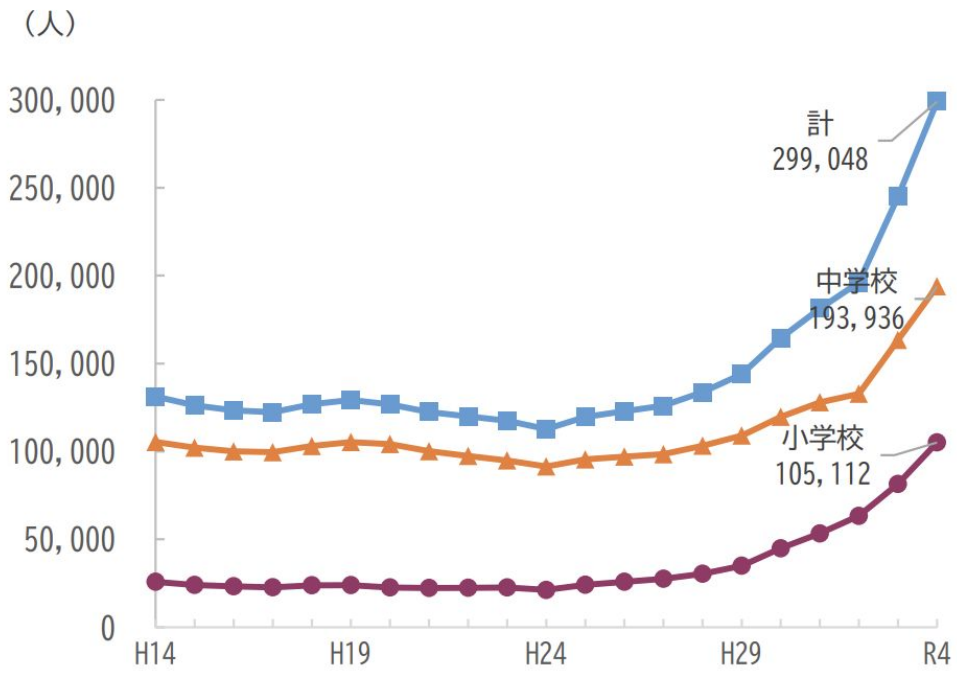
Learning for All

経済的な貧困だけが、問題ではありません・・・

小学校・中学校における不登校児童生徒数は増え続け、

過去最多の約30万人となっています。

不登校児童生徒数の推移



出典：「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文科省）

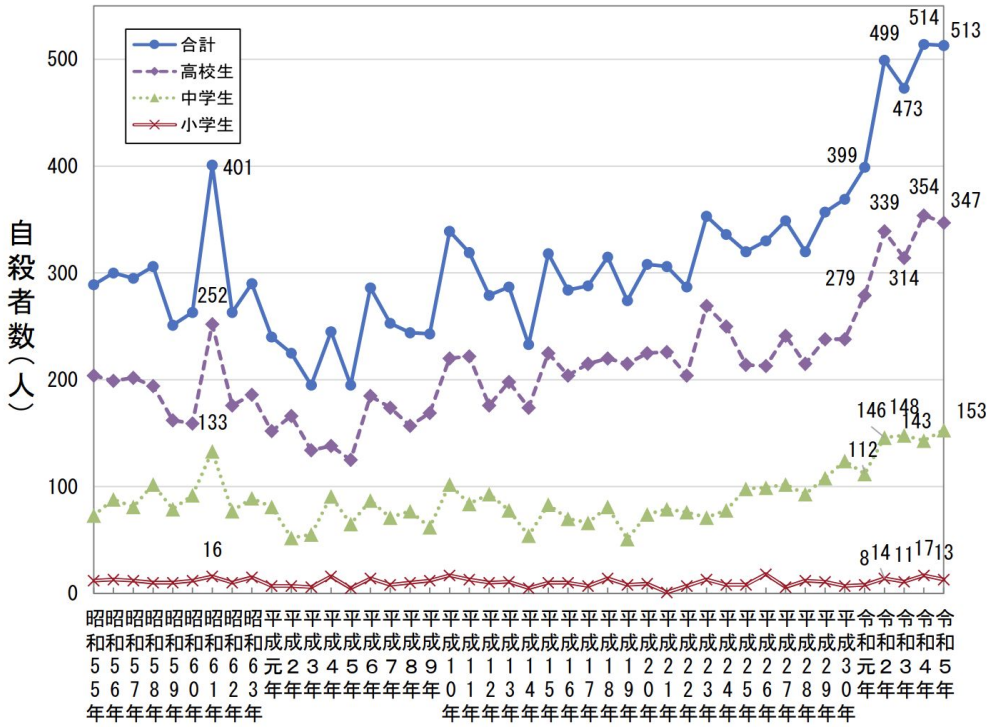
Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

小中高生の自殺は過去最多水準の513人。

小中高生の自殺者数は、近年増加傾向が続き、
令和5年では513人と、過去最多の水準となっています。

小中高生の自殺者数年次推移



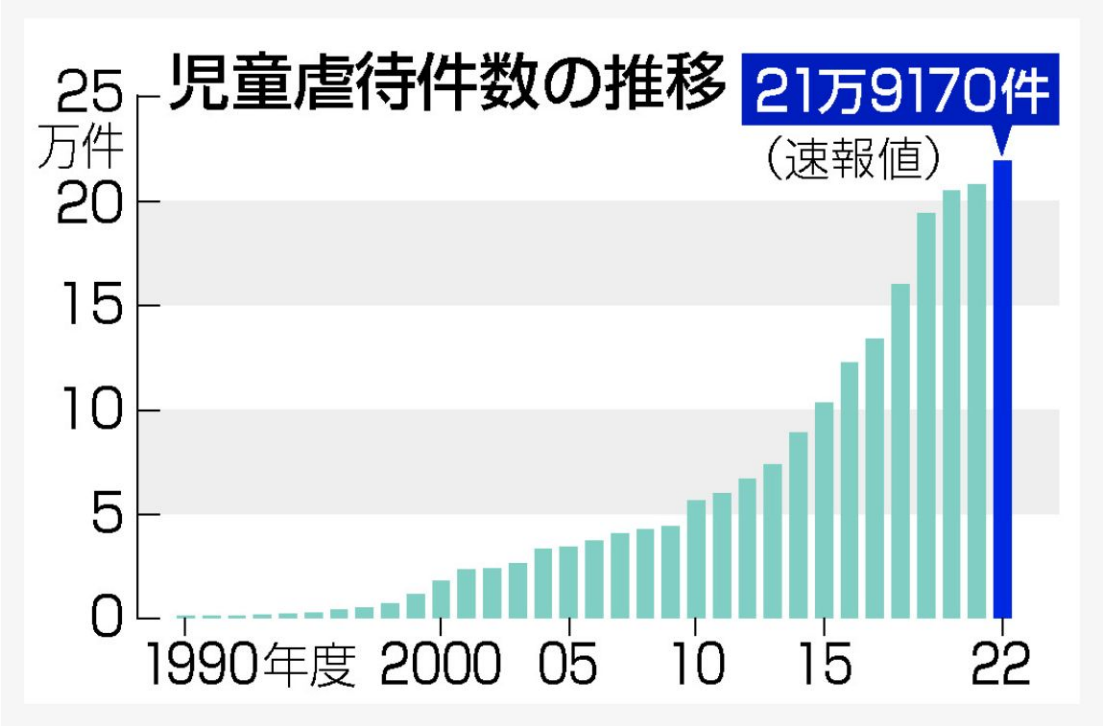
出典:「令和5年中における自殺の状況」(厚労省)

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

児童虐待相談対応件数は、年間21.9万件以上。

特に2009年以降、右肩上がりに増加を続けています。



出典：「令和4年度　児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）」（こども家庭庁）

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

国や自治体・教育機関は、十分な支援を提供していないのですか？

困難を抱える子どもたちに対しては、

「学校」「地域」「家庭」の様々な場面で、

多様な主体がサポートを行っています。

しかし、支える大人側にも、直面している課題・困難があり、

それゆえに、サポートの網目からこぼれ落ちてしまう子どもたち　が

いるというのが現状です。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

子どもたちを支援している大人たちにも、
それぞれの立場で様々な制約があり、
十分な支援の提供が難しい 実態があります。

家庭（行政による支援）

−人手が足りない。

−学校やSSWとも情報交換できればと思うが、最近は**個人情報の関係で連携が一層難しく** なったように思う。

−保護者支援が主なため、子どもの様子は情報が入らないことも…。

−**子どもの支援現場がどこにあるか、どう繋いでいいか** わからない…。

学校

−**時間が足りない、人手が足りない。**

−相談するにも**個人情報をどこまで伝えていいのか** …。

−**ケースごとに相談先も違う** し、どこに相談したらよいのか…。

−他機関との連携も大事。連携先の情報がもっと欲しい。

−**学校からの申請がないと動けない**…。

地域（学校外の支援）

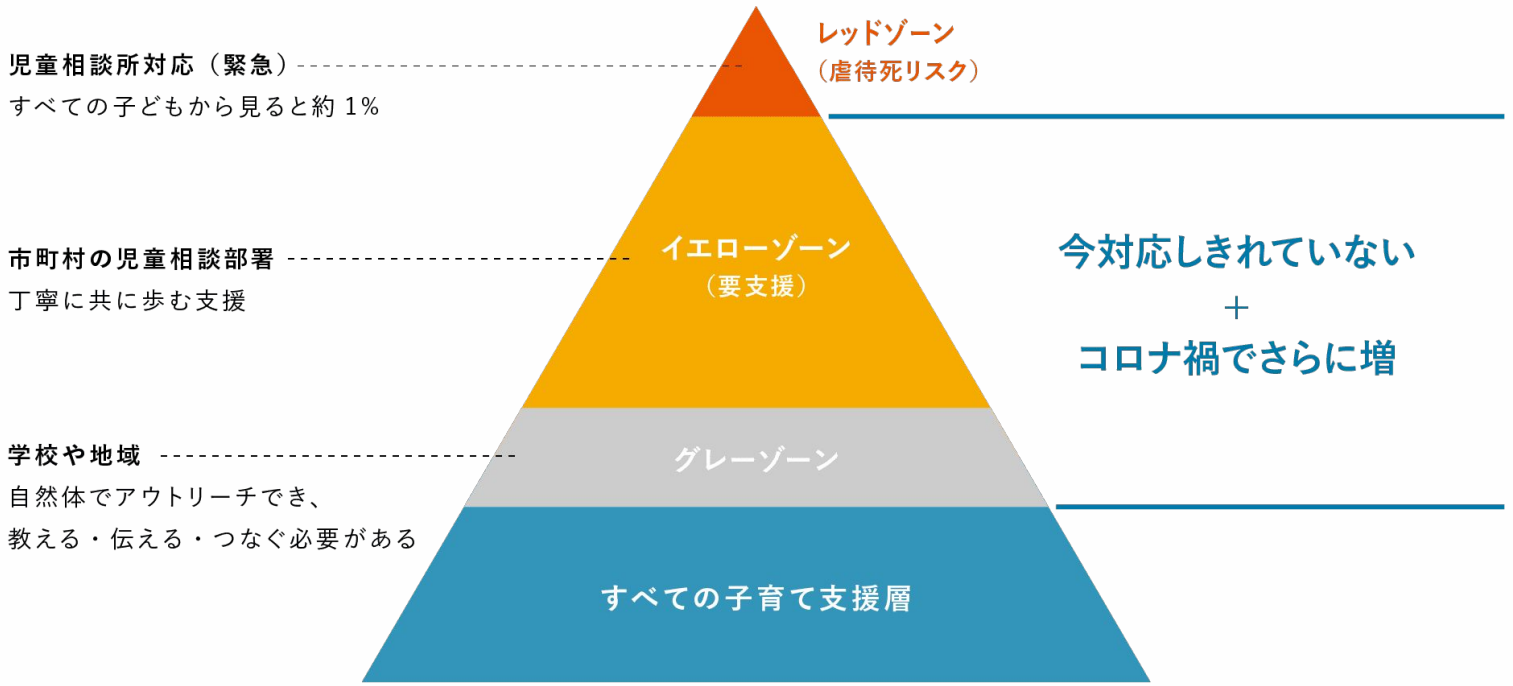
−**他の関連機関ともっと子どもの様子を共有できれば、** より良いサポートができるのに…。

−気になる子がいても、どこに相談したら良いのか…。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

また、特にリスクの高い“レッドゾーン”の子どもたちと、
問題のない子の間に位置する
“イエローゾーン”に多くの子どもたちが存在 し、
そのボリュームゾーンへの支援が特に足りていません。



※図は、大阪府立大学　山野則子教授「学校・家庭・地域の教育力を機能させる仕組み作り～学校プラットドームの実現に向けて」を元に改変

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

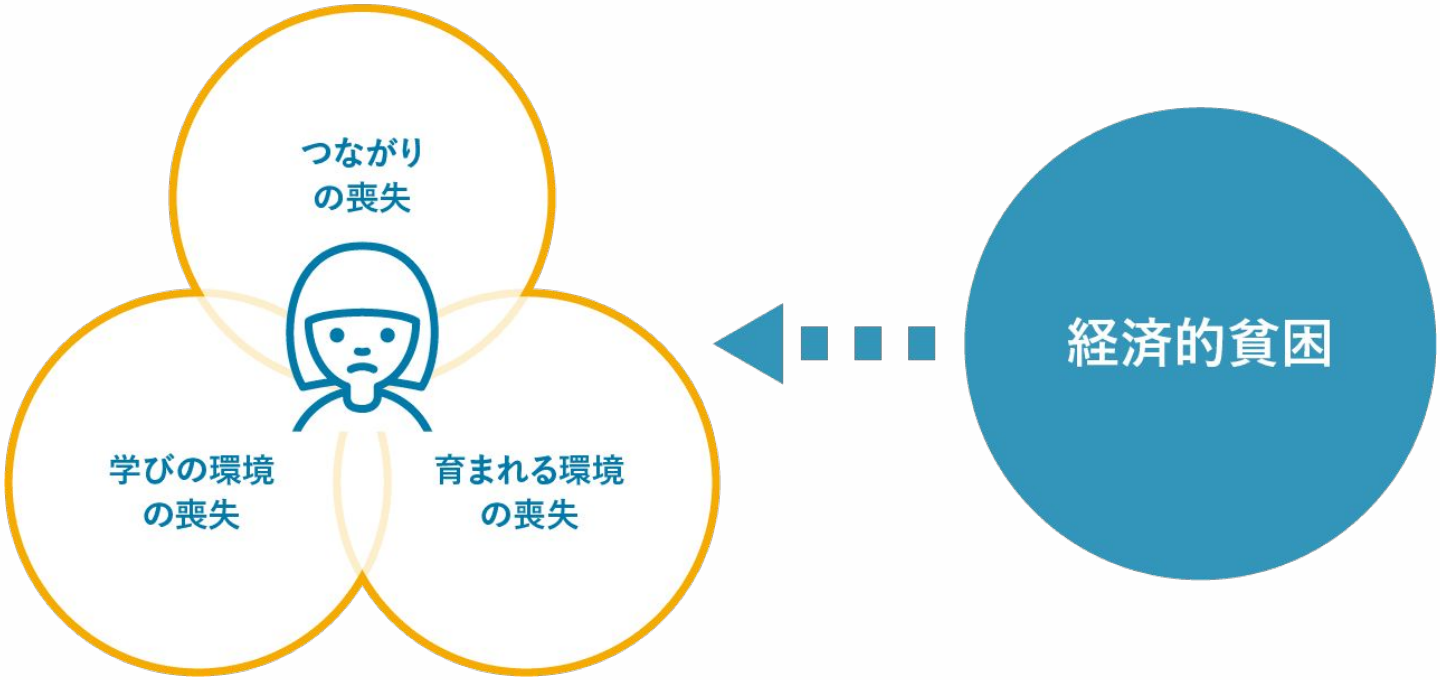
このように、むしろ経済的な基盤がないことを背景として、

本来子どもたちの健やかな育ちに必須である

「つながり」「学びの環境」「育まれる環境」を喪失しやすい

ということが、

問題を複雑にし、自立を阻む大きな障壁 となっています。



Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

3.取り組む課題

Learning for All

つながりの喪失

貧困・不登校・虐待などの様々な事情から、家庭や学校の中で安心できる居場所がない。不安なことやしんどいことを相談する相手もおらず、自分を支えてくれる友人や、NPO等の支援先とのつながりもないため、孤立してしまっている。

学びの環境の喪失

学校以外に学習する環境がなく、自分に適したペースと方法で学びを進めることができない。その結果、学習におけるつまずきを重ね、大きな学習の遅れを抱えてしまっている。さらに、自信も失い、自分の可能性を信じて将来の進路や夢を描くことができない状態に置かれてしまっている。

育まれる環境の喪失

虐待を受けたり、不適切な養育環境に置かれたりしている。そのため、心地よい環境で適切なケアを受ける、基本的な生活習慣を身につける、めいっぱい遊ぶといった「当たり前」の機会が得られていない。こうした状況では心身を成長させることができず、学習以前の段階で様々な課題を抱えてしまっている。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

目次

1.ミッション
2. 団体概要
3. 取り組む課題
4. 事業内容 -3つのアプローチ -
    4-1.2023年度ハイライト
    4-2.一人に寄り添う　-地域協働型子ども包括支援 -
        4-2-1.居場所づくり
        4-2-2.学習支援
        4-2-3.食事支援
        4-2-4.訪問支援
        4-2-5.保護者支援
    4-3.仕組みを広げる
        4-3-1.ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金
        4-3-2.コロナ物価高で増える『虐待』を防ぐ 緊急居場所支援事業
        4-3-3.ノウハウ展開事業
        4-3-4.こども支援ナビ
    4-4.社会を動かす
        4-1.課題の普及啓発
        4-2.社会を変えるリーダー人材の育成
        4-3.政策提言
5. 財務状況

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

3つのアプローチ

今、**目の前にいる子どもにどこまでも寄り添い、支え抜くこと。**
一つの団体ではできない大きなうねりを生み出し、
社会の構造そのものを変えていく こと。

その両方を実現しなければ本当の意味で問題を解決することはできません。

私たちは、現場のリアルな知見を社会に広げていく
3つのアプローチで、子どもたちの未来をつくっています。

1

一人に寄り添う

居場所づくり／学習支援
食事支援／保護者支援 コミュニティ連携
訪問支援

▶

2

仕組みを広げる

基金・補助金事業の運営
ノウハウ展開/ノウハウ共有

▶

3

社会を動かす

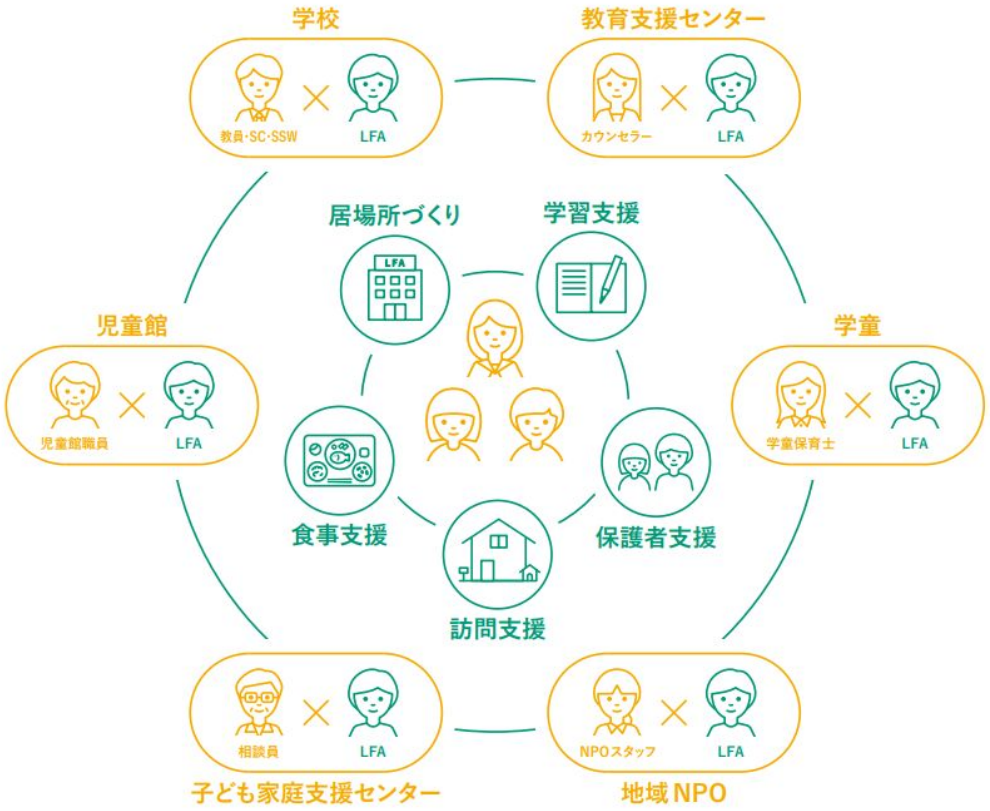
普及啓発／人材育成
政策提言

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

「地域協働型子ども包括支援」の実践

地域のあらゆる立場の 大人たちのネットワークをつくり 、
支援の必要な子どもを見のがさず、早期につながる。
成長段階に合わせ、必要なサポートを6～18 歳まで切れ目なく行う。
そんな「 地域協働型子ども包括支援 」を展開しています。



地域の大人の
支援ネットワークづくり

×

子どもたちへの
包括的な支援提供

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

4-1.2023年度ハイライト

Learning for All

2023年度の実績報告

2023年度は合計19,782人の子どもたちにLFAの活動を届けました。

※ 子どもの支援人数に運営日数と各拠点での 利用率をかけて計算しています。

＃一人に寄り添う

居場所づくり

約200名の大学生がボランティア・インターンで参加し
小学生～高校生世代（6～18歳まで）の子どもたち174名に、
安心して過ごせる居場所を年間延べ1,844日間、提供しました。

小学生の居場所

生活習慣の学び直しや遊び・学習サポートとして、学童保育のような形で週5日運営

中高生の居場所

不登校や家庭・学校に居場所がない子どもを対象に週3日運営

＃一人に寄り添う

学習支援

約300名の大学生がボランティア・インターンで参加し、
小学4年生～高校生世代（9～18歳まで）の子どもたち
94名の学習を年間延べ527日間、支援しました。
また23名の子どもたちが進学・就職することができました。

2023年度 子どもたちの進学状況

高校進学… 18名 大学進学… 4名 就職… 1名

拠点	実績（受験者数 / 合格者数）
板橋	高校受験者数4名 / 合格者数4名
尼崎	高校受験者数2名 / 合格者数2名
葛飾（学習支援）	高校受験者数10名 / 合格者数10名 大学受験者数4名 / 合格者数4名 就職希望者数1名 / 合格者数1名
戸田	高校受験者数2名 / 合格者数2名

＃一人に寄り添う

食事支援

子ども食堂やフードパントリー、
食料品の配達などを通じて
年間509回の食事支援を行い、
合計3,164食分届けました。

＃一人に寄り添う

訪問支援

拠点に通うことが難しい子どもたちに
63回の訪問支援を実施しました。

＃一人に寄り添う

保護者支援

保護者支援を通じ、子どもたちの
サポートにも貢献。日々の悩み相談を行い、
保護者同士の繋がりを促進する
保護者会も実施しました。

＃仕組みを広げる

こども支援ナビ

全国の子ども支援者がノウハウや想いを共有し、
支え合えるオンラインプラットフォーム。
2023年度は72記事がリリースされ、
延べ53,000名以上が訪れました。
また、5回開催されたオンラインイベントに
延べ289名が参加しました。

＃社会を動かす　詳しくはP.10へ

政策提言

子ども支援事業部の宇地原が
こども家庭庁の
部会臨時委員に就任しました。

東京大学との連携により
調査・事業評価を実施しました。

＃社会を動かす　詳しくはP.11へ

尼崎こども支援おなかまプロジェクト

尼崎市の子ども支援の
協働体制を強化するプロジェクト。
研修会と視察ツアーに
延べ129名が参加しました。

＃仕組みを広げる　詳しくはP.8へ

ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金

2021年に、「ゴールドマン・サックス
地域協働型子ども包括支援基金」がスタート。
2023年度までに、合計9団体に
1億1,000万円の助成が行われました。

助成が行われた9団体

- NPO法人いるか（福岡県福岡市）
- NPO法人 STORIA（宮城県仙台市）
- NPO法人ダイバーシティ工房（千葉県市川市）
- NPO法人ビーンズふくしま（福島県福島市）
- NPO法人アスイク（宮城県仙台市）
- 一般社団法人 SGSG（岡山県岡山市）
- NPO法人ケアット（兵庫県神戸市）
- NPO法人抱僕（福岡県北九州市）

＃仕組みを広げる　詳しくはP.9へ

READYFORとの 休眠預金活用助成プログラム 緊急居場所支援事業

READYFORと協力して
休眠預金を活用した助成を
全国11の団体に合計2.5億円実施。

助成が行われた11団体

- NPO法人こどもの里（大阪府）
- NPO法人さいたまユースサポートネット（埼玉県）
- 認定NPO法人STORIA（宮城県）
- 一般社団法人チョイふる（東京都）
- NPO法人DV対策センター（神奈川県）
- 一般社団法人ビクトリーチャーチ（沖縄県）
- NPO法人ヒミツキチ（宮崎県）
- NPO法人まなびと（兵庫県）
- NPO法人ミタイ・ミタクニャイ子ども基金（神奈川県）
- 一般社団法人merry attic（埼玉県）
- NPO法人ここ（大阪府）

4-2.一人に寄り添う～地域協働型子ども包括支援～

Learning for All

1

一人に寄り添う

居場所づくり／学習支援

食事支援／保護者支援 コミュニティ連携

訪問支援

2

仕組みを広げる

基金・補助金事業の運営

ノウハウ展開/ノウハウ共有

3

社会を動かす

普及啓発／人材育成

政策提言

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

LFAの提供する支援メニュー

6～18歳の子どもの状況に合わせ、幅広い支援内容を柔軟に展開しております。

居場所づくり

学習支援

食事支援

訪問支援

保護者支援

2023年度LFA直営提供サービス数

都・県	市・区	拠点数
東京都	葛飾区	15
	板橋区	4
埼玉県	戸田市	5
茨城県	つくば市	3
兵庫県	尼崎市	1

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

居場所づくり事業

小学生～高校生世代（6～18歳まで）の子どもたちに、
安心して過ごせる居場所を提供する事業です。
その子の個性や保護者さまの状況に合わせた個別の支援計画を立て、
一人ひとりに寄り添った支援をおこなっています。

小学生の居場所

生活習慣の学び直しや遊び・学習サポートとして、
学童保育のような形で週5日運営。

中高生の居場所

不登校や家庭・学校に居場所がない
子どもを対象に週3日運営。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

LFAの居場所づくりの特徴

①健やかに育つ基盤づくり

手洗い・うがいや歯磨きといった**基礎的な生活習慣を身につける支援**、宿題の見守りなどによる**学習のサポート**、栄養バランスの整った**夕食の提供**、最大21時までの**預かり**をしています。

③多様性を認め合える仲間づくり

専門性・経験豊富な常勤スタッフが、子どもたちの感情に寄り添い一緒に考えながら、様々な困難を抱える子どもたちがお互いの**多様性を認め合えるような働きかけ**をしています。

②一人ひとりの魅力が輝くサポート

それぞれの子どもにある課題や特性にあわせて支援計画を作り、**それぞれの強みを活かす支援** を行っています。

子どもたちの自己肯定感を高めるために、
彼らが制作した作品の展示やプリントのファイリング、素敵なアクションを褒めるカードを送るなど、子どもたちの強みを可視化しています。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

学習支援事業

小学4年生～高校生世代（9～18歳まで）の子どもたちを対象に、

地域や学校と協力して無償の「学習支援拠点」を運営しています。

質の高さと継続性にこだわり、独自の研修を受けた大学生ボランティアが教師となって、

日々の学習に課題を抱えた子どもたちに寄り添って勉強を教えています。

学校内別室登校支援

学習の遅れの解消を目的としつつも、不登校の子の居場所的な役割も果たす別室での支援。
週1～2回、1日3～5時間実施。

公民館学習支援

不登校・日本語に難等、学校での個別対応が難しい子を対象に週2回の1対1対応の個別指導を実施。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

LFAの学習支援の特徴

①学習の「質」へのこだわり

大学生のボランティア教師はLFA独自開発の量・質ともに**充実した研修**（約40時間以上）を必須受講。フィードバックにあたるスタッフを配置し、指導の**振り返りを徹底**することにより常に**授業のやり方や教材を改善**。教師1人に対して生徒2～3人の、一人ひとりに寄り添った個別指導を展開しています。

②確実に成果を出すために

生徒が確実に学習で成果を出せるよう、プログラム中は同じ教師と生徒たちで行い、3か月を区切りとした**継続的なプログラム**を提供しています。
信頼した教師と安心できる学習環境は、生徒の確実な学習効果に繋がります。
※夏は短期集中プログラム（5～7日間）

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

食事支援

子どもたちの健やかな育ちには、栄養のある食事がかかせません。
経済的に 困難を抱えていたり、仕事で忙しい保護者の方に代わり、
子ども食堂の他、フードパントリーや食料品の配送まで、
様々な方法で子どもたちの「食」を支援しています。

子ども食堂

小学生～高校生世代（6～18歳まで）の
子どもたちに、
登録制で週5日の食事を提供。
月2回は地域の大人・子どもを含めた
食堂を開催しています。

フードパントリー

LFAの支援拠点で野菜などの食料を並べ、
無償配布する活動です。
コロナ禍の緊急支援からはじめた活動を、
今も継続して行っています。

食料品・物資の提供

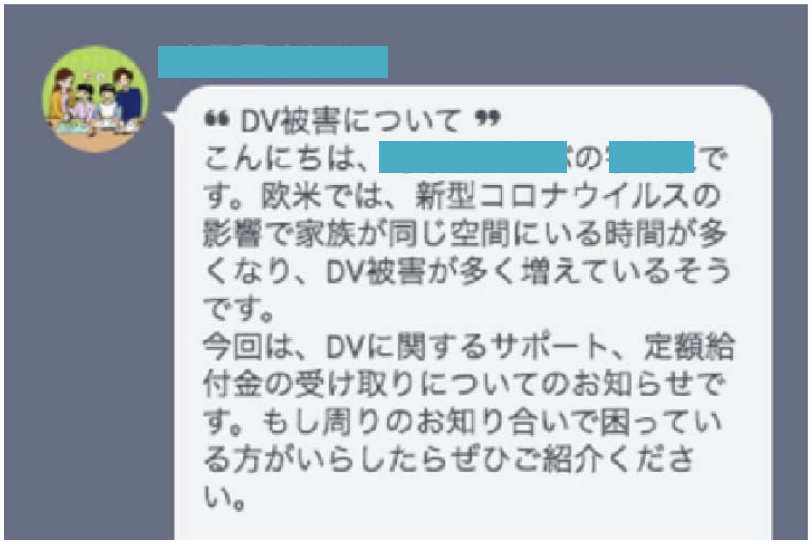
経済的に厳しい状況に置かれた
保護者の方からの声に応え、
家庭に必要な食料品や
生活物質を、直接配送しています。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

保護者支援

子どもたちを支えるためには、保護者の方のサポートも欠かせません。
LINEやメール、電話、対面と様々な手段を活用し、日々の悩み相談だけでなく、
支援制度の紹介・窓口への繋ぎ等も対応。保護者さま同士の繋がりづくりとして、
保護者会等も実施しています。



Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

訪問支援

さまざまな理由で拠点に直接通うことが難しい子どもたちのために、
個別のニーズに合わせて、話し相手として近況や悩みを聞いたり、
一緒に遊んだりすることで、子どもたちが安心して社会に踏み出せるよう、
丁寧に伴走支援を行なっています。

訪問支援のエピソード

小学4年生から不登校となり、社会とのつながりがなくなっていることに不安感を覚えた保護者の方が学校へ相談、スクールカウンセラーからLFAを紹介されて訪問支援を開始した女の子がいました。
支援当初は「学校にいってほしい」「朝起きて自分のことをやってほしい」という保護者の願いは多々ありましたが、本人が何に引っかかっているのか分からない状況でした。その子と一緒に、生活の中で起こっていることを丁寧に言語化し、困り感を整理することで、初めて自分の体験について話ができるようになりました。そして、感情や行動をコントロールする感覚が高まり、起床や留守番など自身で対処できることが増えていきました。
今は、スクールカウンセラーとお話しに行くことを目標に頑張っています。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

支援の必要な子どもたちと繋がるために

LFAでは、本当に支援が必要な子どもたちと繋がるために、
日々の活動を通じた地域・学校・行政・NPOの方々との交流　を大切にしています。

例えば、居場所支援拠点の近くの公園では、
地域の子どもたちと一緒に遊んだり、
自治体のお祭りや行事にも、積極的に参加。
誰でも参加できる「子ども食堂」の定期開催や、
フードパントリーを通した地域企業との連携など、
LFAが主体となって、交流の場を設けることも。
こうした日々の地道な取り組みにより、
様々なセクターの大人たちとの信頼関係を築き、
「地域協働型子ども包括支援」の
実践につなげています。

フードパントリーの様子

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

4-3.仕組みを広げる

Learning for All

1

一人に寄り添う

居場所づくり／学習支援
食事支援／保護者支援 コミュニティ連携
訪問支援

2

仕組みを広げる

基金・補助金事業の運営

ノウハウ展開/ノウハウ共有

3

社会を動かす

普及啓発／人材育成
政策提言

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

「地域協働型子ども包括支援」の全国展開

現在の日本では、子ども支援に関わる人・団体の努力にも関わらず、

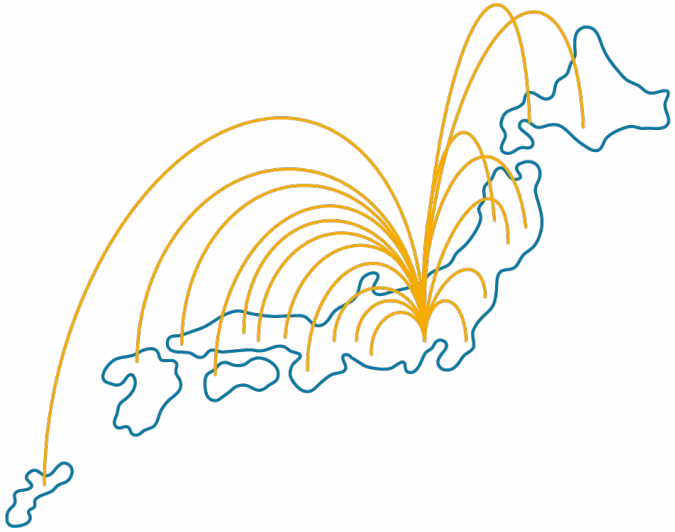
支援の「量」「質」ともにまだ足りていない のが現実です。

LFAでは、これまで培ってきた実践的な支援のノウハウを

全国の子ども支援団体や企業に提供。

日本中の子ども支援者がつながるネットワークづくりにも取り組むことで、

「地域協働型子ども包括支援」の全国展開を推進しています。

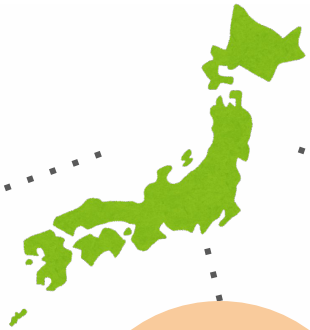


Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

4-3.仕組みを広げる

Learning for All

全国展開の主な取り組み



民間団体

自治体

支援者

①
基金・補助金事業の運営

ゴールドマン・サックス
地域協働型
子ども包括支援基金

コロナ物価高で増える「虐待」を防ぐ
緊急居場所支援事業

②
ノウハウ展開

LFA e-learning

LFA 集合研修

③
子ども支援に関する
ノウハウ共有サイトの運営

こども支援ナビ
Connect for children in need

Learning for All

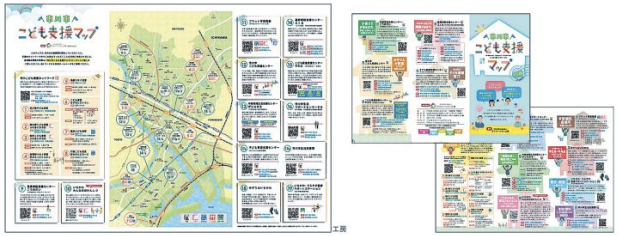
ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金

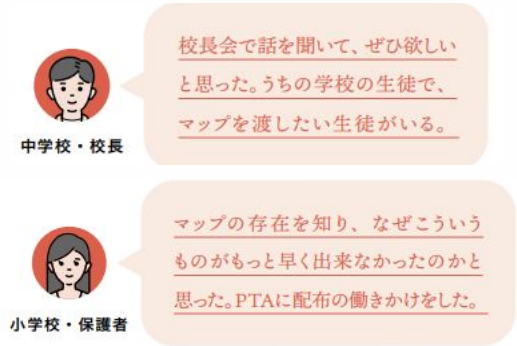
2021年5月、ゴールドマン・サックスからの資金支援をもとに、
公益財団法人パブリックリソース財団とLearning forAll が協働し、創設。
2023年度までに、合計9団体に1億1,000万円の助成を実施。
定例ミーティングや集合研修など、伴走支援も行いました。

＜助成先団体事例＞

NPO法人ダイバーシティ工房（千葉県市川市）

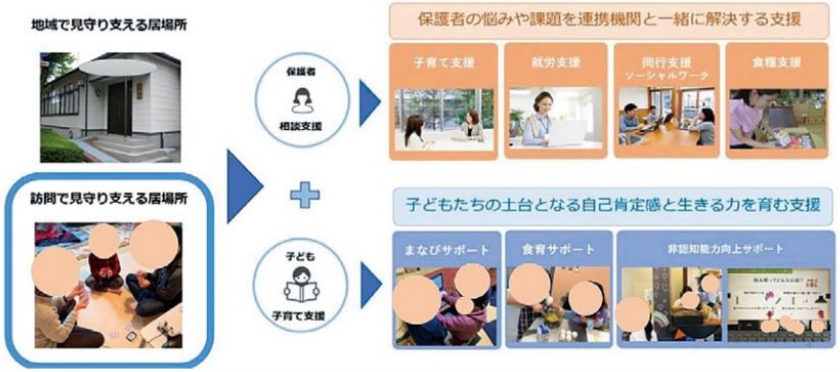
市内の子ども支援に関わる機関が1枚でわかるマップ「こども支援マップ」を作成し、市内130以上の拠点・支援者に6,500枚以上配布しました。





認定NPO法人STORIA（宮城県仙台市）

「訪問型」の子どものサードプレイスを新設。本事業の運営を通じて、サードプレイスの重要性が明らかになり、仙台市の委託事業「令和6年度仙台市子どものためのサードプレイス事業」の事業化に繋がりました。



Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

コロナ物価高で増える「虐待」を防ぐ「緊急居場所支援事業」

コロナ禍・物価高により増加した児童虐待の未然防止をはかるため、
全国の子ども支援団体の居場所事業拡充を促進する助成プログラム　を開設。

READYFORとコンソーシアムを組み、休眠預金を活用して、
全国11団体、総額2.5億円　の助成と伴走支援を実施。

▼助成先団体

▶ 特定非営利活動法人 ヒミツキチ（宮崎県）

事業内容
・2015年設立。
・プレーパークなど子どもの外遊びを通した育ちの権利保障、地域づくりを行う。

本助成により、子どもの居場所・宿泊可能な緊急避難場所を**新規開設。**スタッフ研修や虐待通告フロー作成など、**虐待対応のための組織の基盤強化**にも注力。

▶ 一般社団法人 ビクトリーチャーチ（沖縄県）

事業内容
・2015年設立。
・学習支援やこども食堂を通して、困難な環境にある子どもや保護者を支え、見守っている。

本助成により子どもの居場所を**2か所に増設。**他団体や学校などとも連携し、地域の見守り体制を強化。**自治体への事業提案**も積極的に行い、市長や子ども担当部局も視察に訪れている。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

ノウハウ展開事業

同じように「子どもの貧困」対策に取り組む支援団体・企業の方に向けて、

「LFA e-learning」「テスト・教材」「集合研修」 の2つのサービスを提供しています。

LFA e-learning

動画教材を使って、子ども支援を
行うために必要な研修をオンラインで
受けられるサービスです。

集合研修

子どもとのコミュニケーション
方法から組織運営まで、
各団体様のニーズに合わせた
研修をご提供しています。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

子ども支援に関するノウハウ共有サイト「こども支援ナビ」

「今日より明日、よりよい支援を届けたい」

あなたと共に　まなび、つくり、つながる

子ども支援プラットフォーム

▼ 子ども支援に関する記事を　年間70本以上 更新。

▼「こども支援ナビ Meetup」

全国各地の支援者が繋がり、ゲストを招待して学びや知見をシェアするイベント、
「こども支援ナビ Meetup」 を
定期的に開催。

全国の子ども支援者がノウハウや想いを共有し、支え合える
オンラインプラットフォーム「こども支援ナビ」 を2021年5月に開設。
支援者同士のネットワークづくりにも役立てていきます。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

4-4.社会を動かす

Learning for All

1

一人に寄り添う

居場所づくり／学習支援
食事支援／保護者支援 コミュニティ連携
訪問支援

2

仕組みを広げる

基金・補助金事業の運営
ノウハウ展開/ノウハウ共有

3

社会を動かす

普及啓発／人材育成
政策提言

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

子どもたちを取り巻く社会構造そのものを変えるために

目の前の子どもにどこまでも寄り添う。その重要さは疑う余地がない一方で、

問題を真に解決するためには世論の形成や、社会の仕組みを変えていく必要があります。

LFAは現場での支援活動や、全国の子ども支援団体とのネットワークづくりを通して、

課題の普及啓発・人材育成・政策提言 に取り組んでいます。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

課題の普及啓発

まだまだ知られていない、「子どもの貧困」の現状。

メディアからの取材に応じるだけでなく、対面で直接、説明する機会を積極的に設けています。

メディアでの発信

TVや新聞、ネットニュースなど
媒体を問わず、代表自ら出演し、
課題の啓発を行っています。

企業での研修

企業CSR活動の一貫として、
「子どもの貧困」の社会課題を学び、
ともに解決策を考える
社内研修を販売しています。

社会人向け活動説明会

寄付者の方や、「子どもの貧困」に
ご興味のある社会人の方に向けて、
LFAの活動説明会を
定期的に行っています。

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

社会を変えるリーダー人材の育成

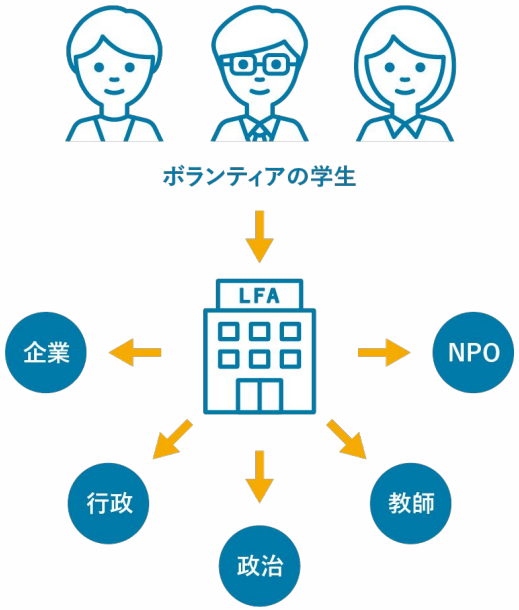
LFAは、学生ボランティアの受け入れを通して、

社会を変えるリーダー人材の育成を行っています。

目の前の子どもたちと真剣に向き合う経験をしたOB・OGたちは、

卒業後もLFAのアルムナイネットワークで繋がり、それぞれの道に進んだ後も、

それぞれのアプローチで「子どもの貧困」の解決に取り組んでいます。



Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

政策提言

全国の子ども支援団体と手を取り合って、

「子どもの貧困」を解決するための調査報告や政策提言を行っています。

調査報告書の公開

統一指標をもとに、子ども・保護者・支援団体の状況等を調査。調査結果を世の中に発信しています。

国や自治体への政策提言

調査結果や現場の子どもたちの声を元に、国や自治体への政策提言を行っています。

- 総理・大臣等への課題提言および現場見学の実施
- 議員・中央省庁への勉強会実施
- 省庁の委員会への参画

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

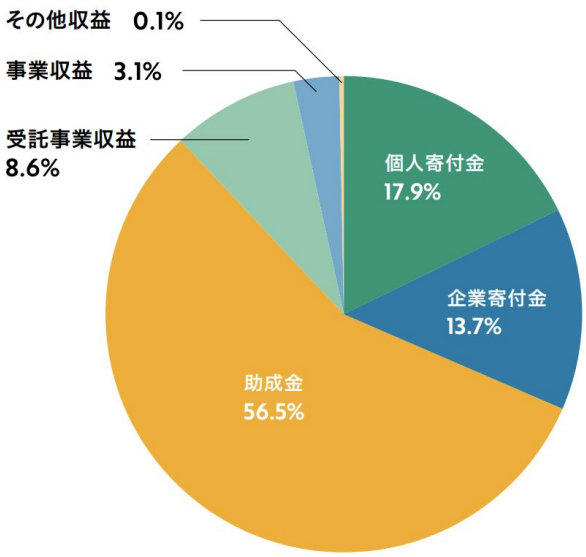
目次

1.ミッション
2. 団体概要
3. 取り組む課題
4. 事業内容 -3つのアプローチ -
    4-1.2023年度ハイライト
    4-2.一人に寄り添う　-地域協働型子ども包括支援 -
        4-2-1.居場所づくり
        4-2-2.学習支援
        4-2-3.食事支援
        4-2-4.訪問支援
        4-2-5.保護者支援
    4-3.仕組みを広げる
        4-3-1.ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金
        4-3-2.コロナ物価高で増える『虐待』を防ぐ 緊急居場所支援事業
        4-3-3.ノウハウ展開事業
        4-3-4.こども支援ナビ
    4-4.社会を動かす
        4-4-1.課題の普及啓発
        4-4-2.社会を変えるリーダー人材の育成
        4-4-3.政策提言
5. 財務状況

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

財務状況（収入の内訳）



	科目		全額（単位：円）
収入	個人寄付金	（個人サポーター寄付金）	135,262,166
	企業寄付金	（企業サポーター寄付金）	103,414,938
	助成金	（助成団体・企業からの助成金）	425,742,161
	受託事業収益	（委託金収入）	64,882,021
	事業収益	（啓発事業収入）	23,514,114
	その他収益	（雑収入等）	1,127,199
	総計		**753,942,599**

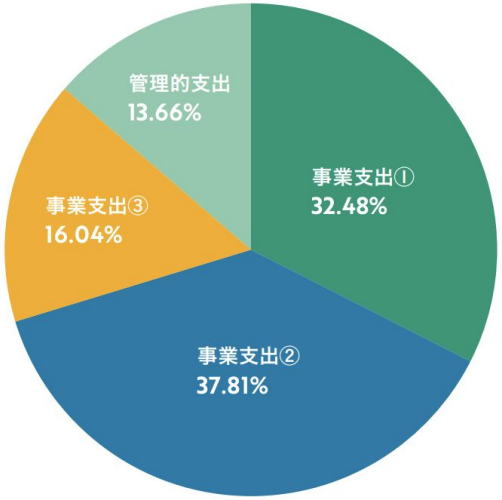
※2023年度

2023年度の収入の合計は、前年比 168%と大幅に増加し、7.5億円となりました。内訳としては、寄付金が2.3億円(31.6%)、助成金が4.2億円(56.5%)、事業収益が8.8千万円(11.7%)でした。そのうち**寄付収入（個人寄付金＋企業寄付金）は前年比　112%となり、多くのご支援をいただきました。** 最も多い割合となったのは助成金収入ですが、これらはいずれも単年度の休眠預金事業の助成金を2件採択したこと、特に資金分配団体として2.6億の収入が増加したことが影響しており、**次年度以降は収入が減少する予定となっております。引き続き、子どものニーズに柔軟に応じながら持続可能性の高い事業活動を推進するためにも、ご寄付による継続的なご支援をお願いいたします。**

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Learning for All

財務状況（支出の内訳）



	科目	全額（単位：円）
支出	事業支出　①一人に寄り添う（現場支援）	245,432,494
	事業支出　②仕組みを広げる（ナレッジ展開）	285,694,326
	事業支出　③社会を動かす（普及啓発）	121,228,222
	管理的支出	103,245,118
	総計	**755,600,160**

※2023年度

LFAは、3つのアプローチに基づいて事業を行っています。①「一人に寄り添う」活動として、子どもへの直接支援（学習支援、居場所づくり、食事支援など）、②「仕組みを広げる」活動として、ノウハウ展開やナレッジサイトの運営、③「社会を動かす」活動として、メディアを通じた課題の普及啓発活動や人材育成、政策提言活動など。　経常支出は、対前年度比76%増の7.5億円でした。特に顕著なのは、②「仕組みを広げる活動」で、2.5億円の支出増加となりました。これは、休眠預金事業の資金分配団体として、コロナ禍の居場所事業を推進する11団体へ助成金を支給したためです。その影響で①「一人に寄り添う活動」の支出割合は32.5%にとどまりましたが、支出額としては前年より2.3千万円増加（11%増）となっています。事業支出の増加に伴い、認定NPOの継続や休眠預金事業の資金管理を行うための管理体制の強化に注力をし、管理費の割合は約14%と昨年より減少していますが、支出額としては3.5千万円の増額となっています。次年度は②「仕組みを広げる活動」の休眠預金事業分の支出がなくなるため、事業費が縮小されることを予定しています。

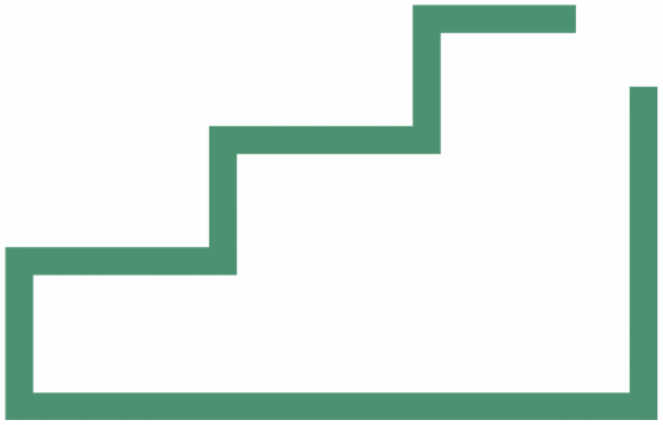
Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.

すべての子どもが自分の可能性に気づき、最大限に発揮できる。
そんな社会を実現させるために、私たちは走りつづけます。

子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning for All



Copyright © 2023 Learning for All All rights reserved.